

青少年育成センターだより

第97号 2020.10.15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013



旧暦10月は、「神無月」と呼ばれ、「日本中から神様が出雲の国（島根県）に集まり、縁結び・収穫・神酒づくりについて相談する月」と言われています。今年は、新型コロナウイルスの感染防止のため、日本国中が自粛という名のもとに様々な活動が制限されています。できれば神様に、コロナ退散についての相談をして欲しいものですね。



心を寄せる

・・・新型コロナウイルスの感染拡大は、わずか数ヶ月の間に私たちの生活を一変させ、今なお世界各地で多くの命を奪い続けています。あらゆる国と地域の人々がその影響を受け、大切な命や暮らしを守るため、懸命に闘っています。その中で最も過酷な状況にさらされているのが、パンデミックの発生以前から苦しい生活を強いられてきた途上国の子どもたちです。・・・

・・・南アジアのアフガニスタンでは、生後11ヶ月のナグマが命の危機に瀕しています。コロナ禍で父親が収入を失って食べ物が手に入らなくなり、深刻な栄養不足に陥ってしまったのです。アフリカ・ケニアのスラム街に住む9歳のプレシャスは、感染予防には手洗いが重要だと知っていますが、家に水道はなく、石けんを買うお金もありません。中東のイエメンでは、戦火で故郷を追われた11歳のサリハが、避難の末にたどりついた町で新型コロナウイルスの流行に直面しています。抵抗力の落ちた身体に感染症の脅威が襲いかかります。・・・

ユニセフ（国際連合児童基金）より

この文章から、新型コロナが途上国の子どもたちに対し、凄まじい影響を与えていることがわかります。

日本においても、新型コロナの子どもたちの生活への影響は、とても大きなものがありました。休校が長く続いたことにより、学習の遅れもありました。「友達と一緒にグラウンドで走り回ることができない」「大きな声で合唱することができない」「友だちと机を揃えて共同学習したり、給食を食べたりすることができない」「部活で十分活動できない」「対外的な試合（発表会）ができない」等、今までできていた普通のことができなくなっていることが多くあります。（徐々にできるようになってきていますが）このような不自由なことがあっても、日本の子どもたちの多くが、学校に行くことができ、友達と共に勉強ができ、様々な活動ができます。マスクがあり、石けん（消毒液）で手が洗えます。途上国の子どもたちと比べるとどうでしょうか。まだまだ、恵まれていると言えます。

日本の子どもたちに、世界には、この記事に書かれているような子どもたちが存在するということを知って欲しいと思います。自分たちは、途上国の子どもたちに比べ、まだ恵まれているのだということを知って欲しいのではありません。他の国を憐れんで欲しいのでもありません。ただ、立場の弱い人に対して心を寄せることができる人になり、将来は手を差し伸べることができる人になって欲しいと思います。

子どもたちには、自分たちはこれから、未来に向けて何ができるのか、そのためにどのような生活をしていけばいいのかを考えた生活を送って欲しいものです。そのことが、コロナ禍であるという、ピンチをチャンスに変えることになるのです。

（文責＝青少年育成センター指導員 藤村）